



野鳥の 不思議解明 最前線 #92

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

日本に渡ってきたオオルリ。彼らはどのように中継しながら渡ってきたのだろうか？
撮影●内田博

雄は雌よりすぐに太れる？

～中継地ですばやく栄養補給をするアメリカムシクイの雄～

近所の雑木林でツミを観察していると、ここでは繁殖していない多くの夏鳥たちを見ることができます。4月上中旬のセンダイムシクイにはじまり、キビタキやオオルリの声が聞かれます。今も時折メボソムシクイやオオムシクイの声を聞くことができます。小さな緑地といえども、鳥たちの重要な中継地になっているようです。ここで鳥たちは食物を補給して、そしてさらに北へ向けて旅立っていくのでしょう。

こうした渡りの中継について、これまでの研究で、繁殖する必要のある春は秋よりも中継期間を短くして早く渡ることで、そして繁殖地に早く着くことで良いなわばりをかまえることのできる雄は雌よりも早く渡るだろうことが多くの種で調べられてきました。しかし中継地での栄養補給の状況については、それを示すことは難しく、これまで、明瞭な結果は示されてきませんでした。

そこで、Seewagenさんたちのチームは plasma metabolite analysis という方法を使うことで、それを示しました。彼らは、この手法をつかって、3つの仮説を検証しました。1) 春の渡りで雄は雌よりも中継地ですばやく栄養補給をする、2) 秋より春はすばやく補給する、3) 秋の渡りで成鳥は幼鳥よりはやく栄養補給するの3つです。

春の雌雄の比較はカオグロアメリカムシクイ *Geothlypis trichas* とキツタアメリカムシクイ *Setophaga coronata* について調べると、雄の方が雌

よりもすばやく栄養補給をしていることがわかりました。春と秋の比較（5種対象）でも春の方がすばやく栄養補給をしており、繁殖のために早く渡っている可能性がうかがえました。しかし、秋の渡りの成鳥と幼鳥には栄養補給の速度に差は見られませんでした（4種）。

雌雄の栄養補給速度の違いは何を意味しているのでしょうか？ Seewagenさんたちは雄が繁殖地に早くつくためにすばやい栄養補給をしているのだと考えています。タカなどに捕食される危険を冒しても急ぎ採食しているのでしょうか？ それとも雄の方が雌よりも採食能力が高いだけなのでしょう？ こうしたことを明らかにするためには、実際の採食行動を観察するのがよいのですが、小鳥の採食行動の観察は容易ではありません。せめて秋のこれらアメリカムシクイ類の栄養補給速度の雌雄比較があれば、より推測ができたのに、と思いました。また、秋の渡りでの栄養補給速度に成幼で差がなかったのも興味深いところでした。若鳥の採食能力が低いためにゆっくり渡るわけではないのですね。飛翔能力の差なののでしょうか、何なののでしょうか？ 今後の研究の進展に期待したいと思います。

紹介した論文

Seewagen, C.L., Guglielmo, C.G., & Morbey, Y.E. (2013). Stopover refueling rate underlies protandry and seasonal variation in migration timing of songbirds. *Behavioral Ecology* 24: 634-642.